

第4章「みんなの力がつながる観光・産業づくり」

○「住民が元気になる交流観光づくり」

緑豊かな森林や奥多摩湖など豊富な水環境が豊かな町には、その自然環境を求めて年間212万人を超える観光客が訪れていると推計されております。コロナ禍においても、外国人観光客は減少しているものの、近郊からの観光客は増加しており、コロナ収束後の観光地として、しっかりとした受入れ態勢を整えてまいります。

また、森林セラピー事業では、昨年8月、全国46団体が加入する「森林セラピー基地 全国ネットワーク会議」の会長を私が務めることとなりました。全国加入団体の代表として、森林セラピー専用ロード「香りの道 登記トレイル」の再整備を含め、町の特色を活かした事業の推進を図ってまいります。

○「奥多摩ならではの地域産業の推進」

野村不動産ホールディングス株式会社が設立した「森をつなぐ合同会社」と連携し、健全な森林の育成や地域材を活用するなど、持続可能な森林経営の実現に向け、取組を進めるとともに、森林環境譲与税及び令和6年度から始まる森林環境税の積極的な活用を図ってまいります。

また、内水面漁業の振興などに携わる、地域おこし

協力隊員の活発な活動が成果として現れる時期に差し掛かっており、地域資源を活用した隊員の取組が新たな付加価値を生み出し、新たな「6次産業化」へ繋がるよう、引き続き、支援をまいります。

○「観光・産業づくりを推進する力の強化」

奥多摩観光協会やおくたま地域振興財団、JR東日本八王子支社等と連携しての各種イベントやPR事業の実施など、魅力あふれる奥多摩町の観光や特産物等の情報を提供するとともに、わさびーをはじめとしたノベルティグッズの充実を図り、観光客の誘致につなげてまいります。

また、JR東日本八王子支社では、青梅線の青梅駅から奥多摩駅間を「東京アドベンチャーライン」として愛称を設定し、自然の中でアウトドア・アクティビティを楽しめる路線としてPRしてきましたが、この度、新たに4編成に四季折々のラッピングを施し、全部で5編成のラッピング列車が揃い、青梅駅から奥多摩駅間を走る専用列車として運行されることとなりました。引き続き、JR東日本八王子支社と連携して、地域住民の皆様や観光客に愛される路線になるよう「東京アドベンチャーライン」の魅力を発信してまいります。

第5章「住民と行政がともに考え、ともに築く、住みよい・住みたいまちづくり」

○「官民協働による定住対策とまちづくり」

過疎化による少子高齢化対策や地域コミュニティの維持へつなげるため、空家の活用や子育て応援住宅の建設を実施し、町内への定住、移住が図られるよう定住対策事業を推進してまいります。

事業の実施にあたっては、地権者や空家所有者をはじめ、地域の皆様のご理解、ご協力が不可欠であります。今後も、皆様方のご理解、ご協力を得ながら定住施策を推進してまいります。

○「成果を重視した行政改革の推進」

第5次行政改革大綱に基づく『量から質への転換を目指した「しごと・ひと・しくみ」の改革』を推進し、町民皆様に満足いただける行財政運営が図られるよう努めてまいります。

また、多様な行政需要への対応と各課の業務を最適化するため、限られた職員数の中、役場組織の見直しを行っているところであり、山のふるさと村及び都民

の森の二つの都指定管理施設を統括し、両施設の積極的かつ一体的な運営に資するため、新たに観光産業課へ、自然公園施設担当課長を配置するとともに、下水道事業の持続的で安定的な事業運営に資する公営企業会計移行及び多様化する環境面への対応に向けて、新たに環境整備課へ、環境担当主幹を配置いたします。

○「身の丈にあった健全な財政運営の推進」

自主財源である町税が年々減少を続け、国や都へ財源を依存している厳しい財政状況の中、各種事業の見直し・再構築を図りながら、事業の実施にあたっては、限りある財源を効果的、効率的に執行し、身の丈にあった健全で堅実な財政運営を推進するとともに、将来の財政需要を見通し、引き続き、基金への積立及び活用を計画的に行ってまいります。

また、町税の収納率は、依然高い水準を維持しており、町税は減少傾向にあるものの貴重な自主財源でありますので、今後も収納事務の対策を緩めることなく、自主財源の確保を図ってまいります。